

百人一首巻頭の天智天皇御製

「秋の田のかりほの庵の苫をあらみわが衣手は露にぬれつつ」  
 収穫した稲穂を一時的に収納しておく仮小屋の屋根がしっかりと  
 葺いてないので、鳥除けの番をしている私の袖が雨露に濡れるとい  
 う意味です。



う意味です。

天皇の御製としては異例の内容であり、天皇でありながら農民の身の上になつてその辛苦を偲んだ歌とか、天皇の歌に仮託して伝承されてきたとかの説がありません。万葉集には、作者不詳の歌として「秋田刈る仮庵を作りわが居れば衣手寒く露ぞ置きにける」というよく似た歌があり、この歌が変化して平安時代以降天智天皇の歌として伝えられたのではないかとわれています。

それとともに、日本の米作りの起源神話として、皇室のご先祖が天照大神から高天原の稲穂を授かり、子々孫々相伝えてきたのが米作りの起源であると伝えられ、皇室と米作りとの深いつながりを背景として、農民のような歌が天智天皇の歌として伝えられてきたと考えられています。現在、皇居



内の神殿である宮中三殿でも新嘗祭が行われ、天皇陛下が皇居内の田で稲を栽培し、御自ら播種、田植え、稲刈りを行っておられることもそのような意味があります。

なぜ天智天皇の歌が百人一首の巻頭歌になっているのか。平安時代の公家社会にとつて日本と皇室の中興の祖と仰がれ、また直接の先祖とも考えられた天智天皇は特別の存在であったことが挙げられています。

そして江戸時代、百人一首はかるた遊びとして、また読み書きの教材として一般庶民にも親しまれ、宮廷を模した内裏雑や、源氏物語など平安文学をモチーフとした通俗小説や大衆芸能などとともに、農民、町人など多くの庶民も、宮廷を想像し、皇室を仰慕、憧憬するよすがとしたのでした。

終戦七十周年平和讃仰音楽祭

終戦七十周年の年は暮れようとしています。世界各地でテロが繰り返され、南シナ海での中国の人工島建設や尖閣列島を巡る情勢など、

日本周辺や東南アジアでも軍事的な危機が渦巻いています。

去る八月二十七日、恒例の鎮火祭にあわせて、終戦七十周年奉告祭を斎行し、祭典後、終戦七十周年平和讃仰音楽祭と銘打ち、西安市出身で長浜市在住の中国人ソプラノ歌手・程万紫女史の奉納コンサートを行いました。準備が遅かったのであまり広報もできず、参加者四十名ほどと小人数でしたが、戦時回想と追悼、平和祈願の気持ちとともに、中国人でありながら日本の戦没者



を偲んで神社に歌を奉納しようとする程女史の心にも打たれました。知覧の特攻基地を訪れて特攻兵を偲んだ夜、宿舎に現われた一匹の蛍が戦死者の御霊のように感じた回想から「蛍」（「蛍の宿は川端柳・・・」）の歌に始まり、戦没者も親しんだであろう「浜辺の歌」「故郷」、そして「千の風になつて」「海ゆかば」の五曲を、近江神宮佐藤久忠宮司の龍笛伴奏により歌われました。

蛍の光は平安時代の和泉式部の歌「もの思へば沢の蛍も我が身よりにあくがれいづる魂かとぞみる」などにも表われているように、魂にたとえられることが多いものです。ほかに、戦死者追悼の月でもあり盆の月でもある八月は蟬の大合唱の時期でもあり、蟬の声も鎮魂の声と感ずることがよくあります。

### 大祓式（おおはらえしき）

一年を二つに分ける節目の六月末と十二月末に全国の神社で大祓式が行われています。近江神宮でも六月三十日午後四時、十二月三十一日午後三時に行っています。

大祓の神事は私たちの日常生活のなかで、半年間知らず知らずのうちに積み積もった罪けがれを人形（ひとがた）紙を人の形に切ったもの（に託して清々しく祓い清め、明るく正しい生活を送り、ますますすこやかに過ごされるよう祈願する行事です。平安時代初期の『延喜式』にも記され、古くから宮中や全国の神社で年二回の大祓が行われてきました。

六月末の大祓は「夏越（なごし）」といい、高温多湿で病気になるがちな夏を乗り切って健康に過ごすための行事、十二月の大祓は一年の締めくくりとして今年一年間に受



けた災厄を祓い流し、心身清らかにして新しい年を健康に迎えるための祈願の行事でもあります。

### 週刊「日本の神社」

昨年初めからデアゴステイニジャパン社より週刊ムックの体裁で週刊『日本の神社』が発行されています。毎号一社〜数社の神社を扱っていますが、一月に滋賀県内の御上神社・日牟礼八幡宮とともに近江神宮も採り上げられ、発行されることになりました。各号とも各神社の社殿、境内の写真が大きく掲載されています。お読みになりたい方は書店でお求めください。

### 年末年始の祭典等

- |             |                      |
|-------------|----------------------|
| 十二月十三日午前九時  | 門松立て                 |
| 十二月二十日午前九時  | 煤払祭                  |
| 十二月二十三日午前十時 | 天長節祭                 |
| 十二月三十一日午後三時 | 年越大祓式（続いて）除夜祭        |
| 一月一日午前〇時    | 歳旦祭（さいたんさい）          |
| 一月一日午前七時二分  | 初日の出遥拝式              |
| 一月二日午前八時三十分 | 日供始祭（につくはじめさい）       |
| 一月三日午前八時三十分 | 元始祭（げんしさい）           |
| 一月七日午前九時    | 昭和天皇祭遙拝式             |
| 一月九日午前十時    | かるた名人位クイーン位決定戦       |
| 一月十日午前八時三十分 | 天智天皇祭（天智天皇のご命日）      |
| 一月十日午前九時    | かるた祭・高松宮記念杯全国競技かるた大会 |
| 一月十五日午前十時   | 古神札焼納祭               |
| 二月三日午前十時    | 節分祭                  |
| 二月十一日午前十時   | 紀元節祭                 |

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。